

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2450 号

Effects of the numbers and the shapes of venting slits on intraocular pressure after Baerveldt glaucoma drainage implant

(バルベルト緑内障インプラントのベンディングスリット作製時における針の種類と針穴の数による眼圧への影響)

本田 理峰 (ほんだ りお)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、作製方法に関して現在まで確立されていなかった緑内障ロングチューブ手術のベンディングスリットに対する考察を行った論文である。

現在に至るまでベンディングスリットの単孔作製と複数孔作製に関しては術者の裁量に任されており、単孔作製と複数孔作製による眼圧の違いに関して考察されることがなかったため様々な作製方法がとられてきた。また、ロングチューブ手術直後の眼圧のバラつきは症例毎の個体差による眼圧の違いとみなされていたが、作製に用いる針によるベンディングスリットの形状にもバラつきがあり、そのことで眼圧がバラつくことに対して考察されたことはなかった。

本論文は豚眼を用いた模擬的な実験ではあるが、バルベルト緑内障インプラントを用いて臨床に近い形でベンディングスリットの複数穴と針の種類による眼圧の挙動を調べることにより、一定の形状のベンディングスリットがバラつきの少ない眼圧に繋がることと、一定の形状のベンディングスリットでは単孔と複数孔の眼圧の挙動に差がないことを始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。